

A blonde anime-style girl with large, pointed ears and blue eyes. She is wearing a light blue, high-collared, sleeveless top with a zipper down the front, and a black, ruffled skirt. Her breasts are very large and prominent, filling most of the frame. She is posing with one hand near her face and the other on her hip. The background is a light blue gradient with vertical stripes.

**KAHLUA
MILK**

COWBELL



KAHLUA MILK

カレーアミルク ～ もくじ ～

UnFinishedd [アン]

..... P03

変熊 [せまひろ] P12

パイのみ [カスタソ] ... P27

眠りの時には誰かの腕で [県晶]

..... P31





Un
Finished

描:アノ

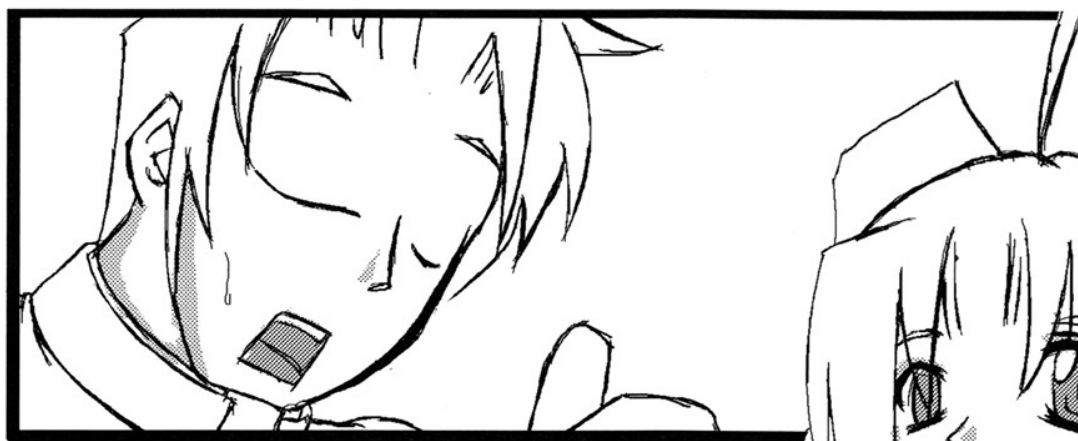




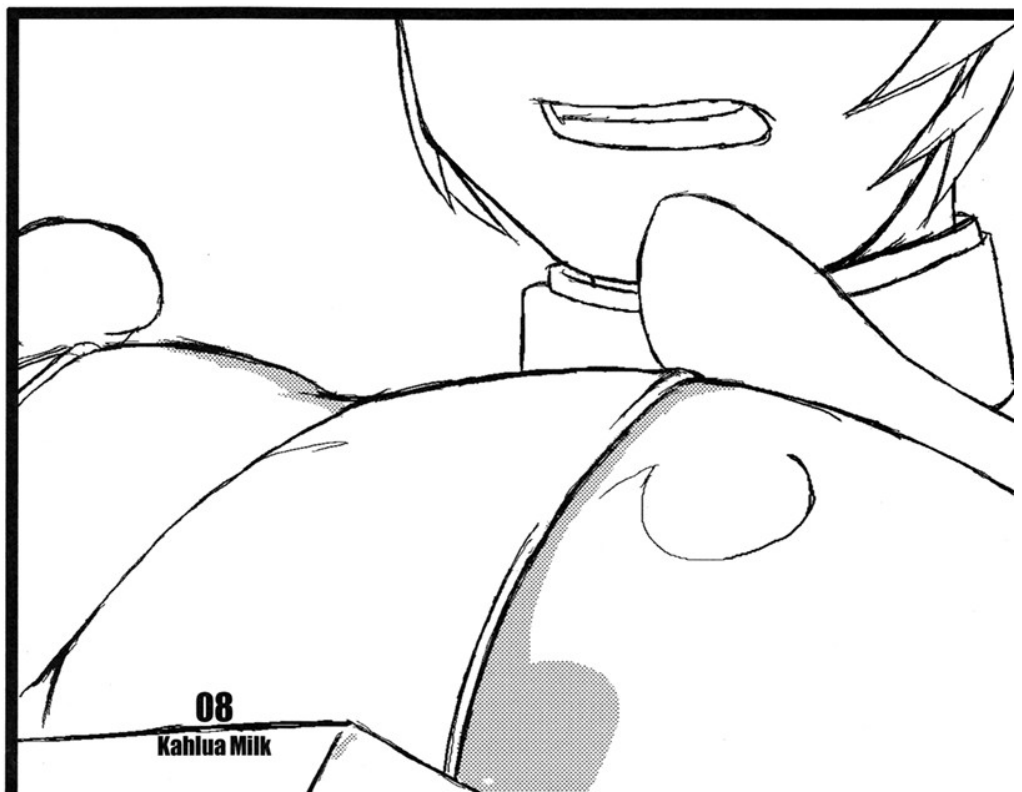
アナタもイヤって…
わけじゃないでしょ？
ね、おねがい…

ま、まあそうだけど…
心の準備ってもんがさ！

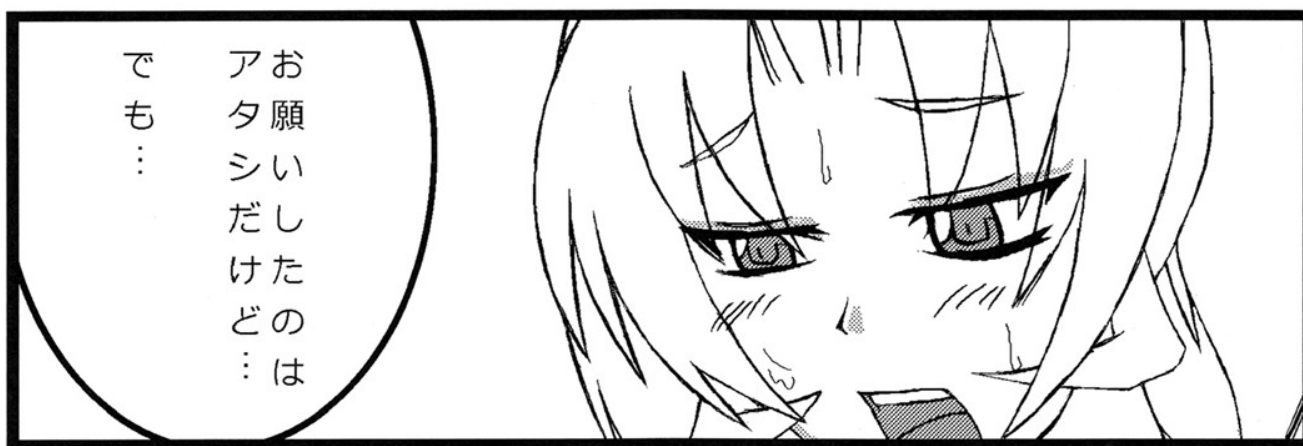




うん、いいよ…
先っぽにたまってるのが
わかる…





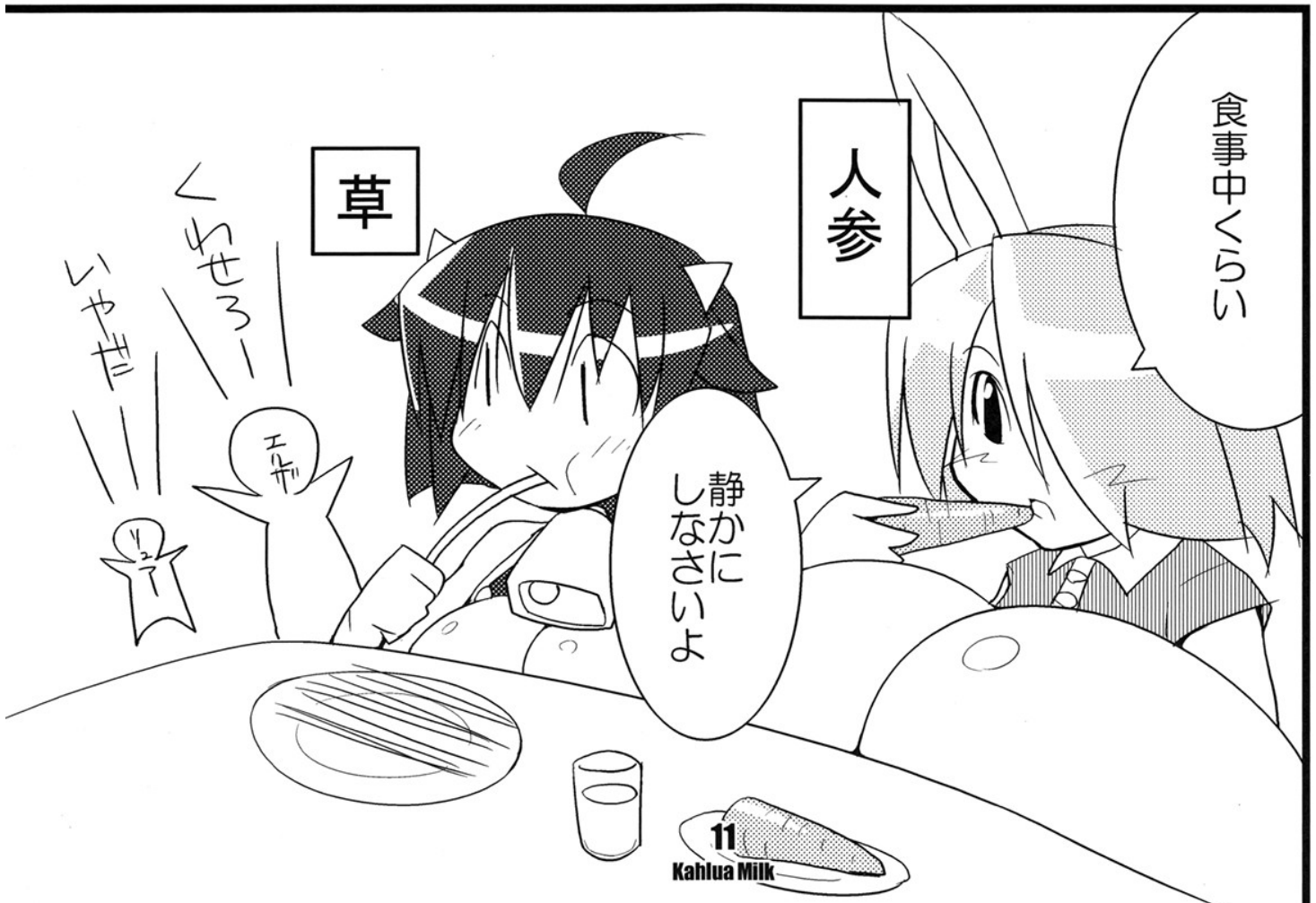
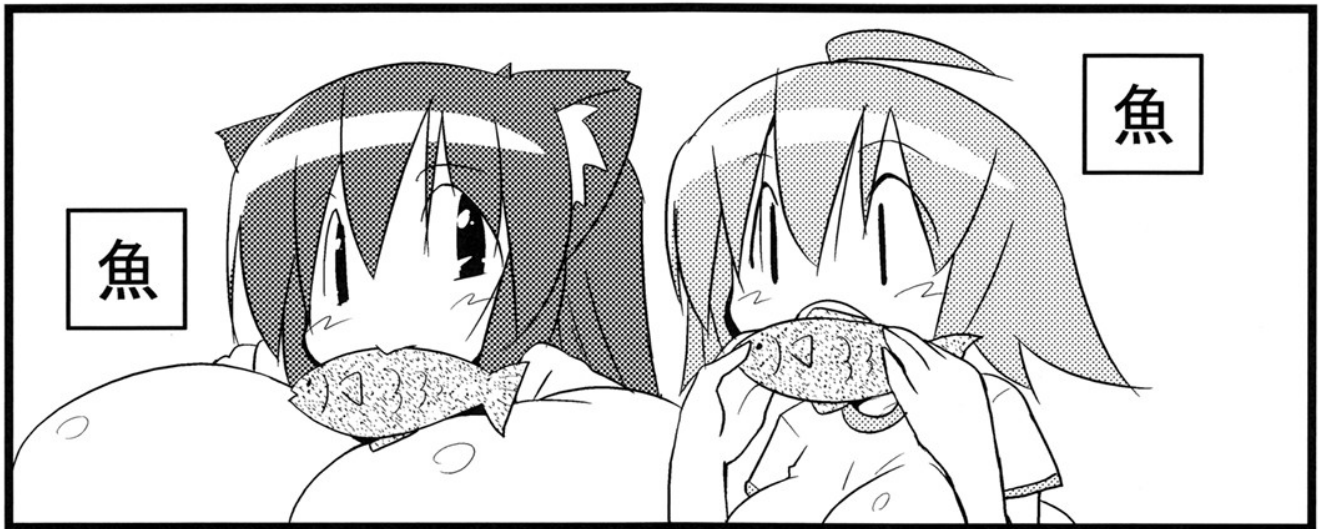


でも：
お願い
だけだ
のは



巨な
きん
くで
なっ
てる
のッ！

HPで・・・つぶく？



みなさん

虫

おはよー
ございます

うわあ

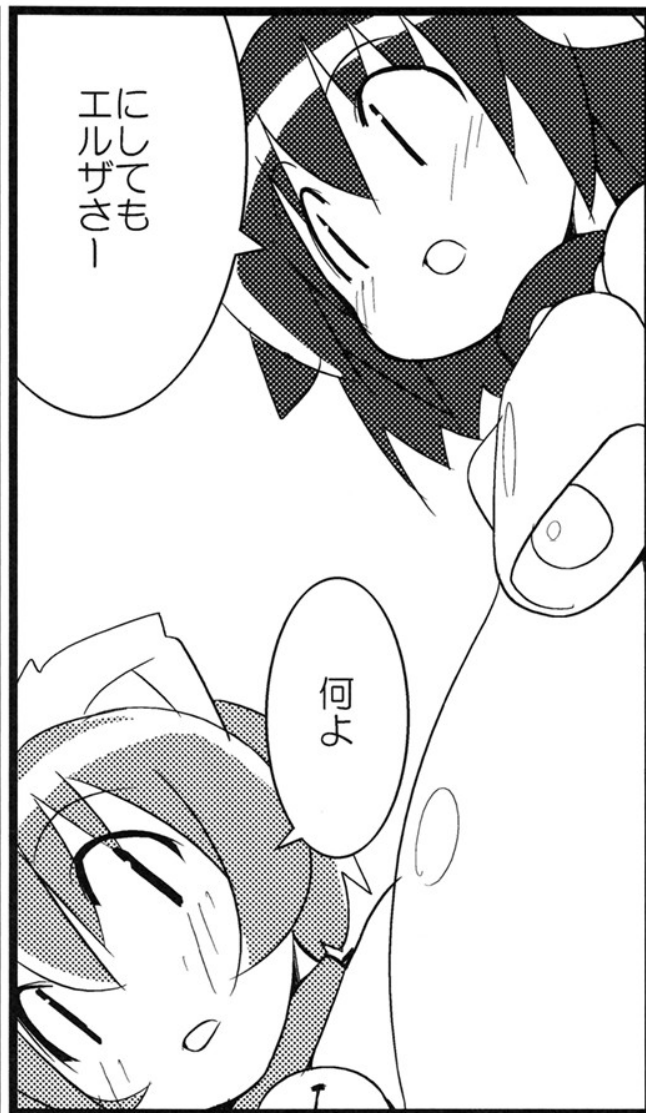
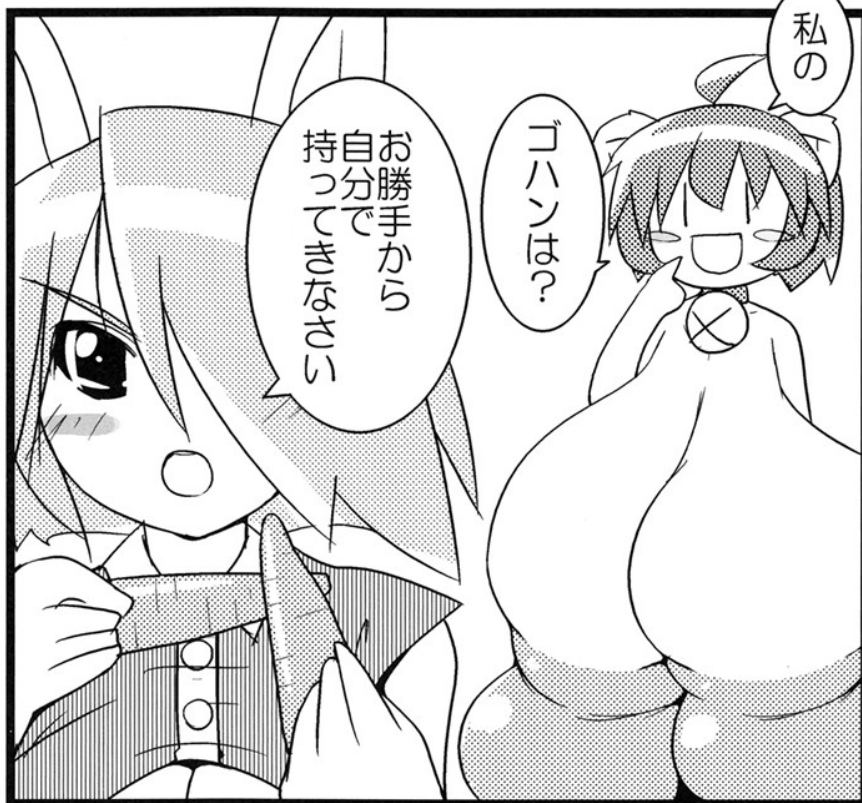
虫

なぜ
出て行く
のですかー

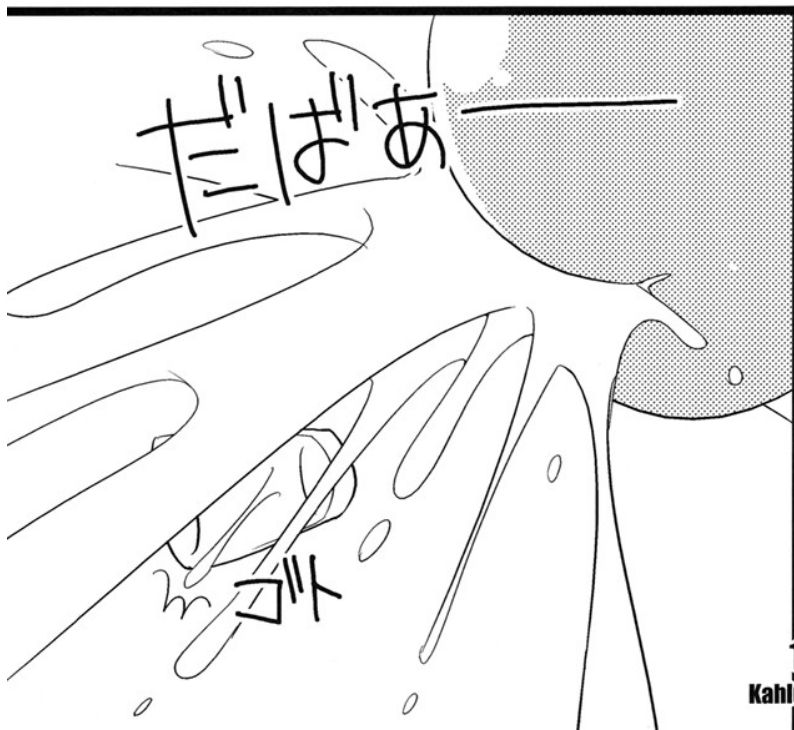
ぞろぞろ

変態

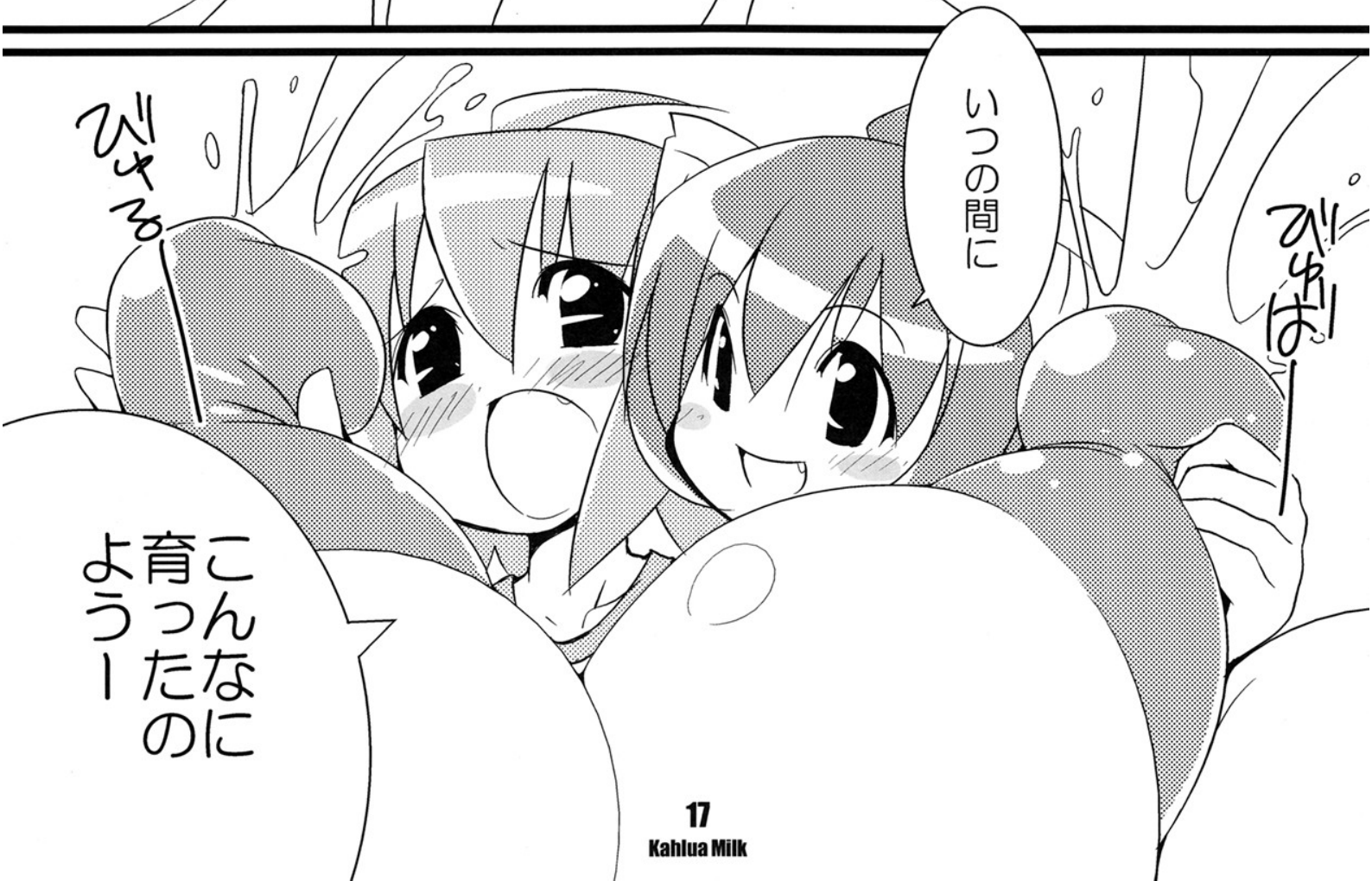
さくえ せまひろ













びゅん
はっ

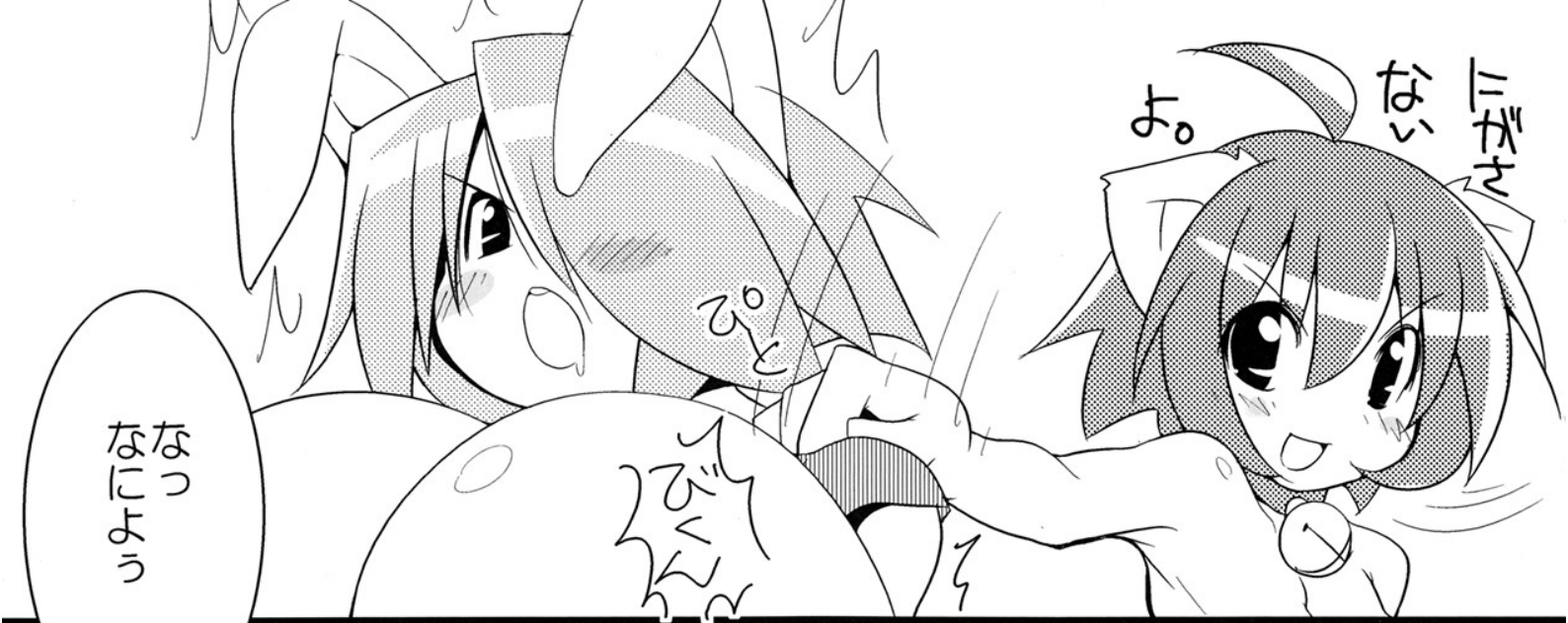
あー

!!!
ooo

お
ちゅる

ぐい
ちゅ
ちゅ
ちゅ

!



にがさ
ない
よ。

なっ
なよう



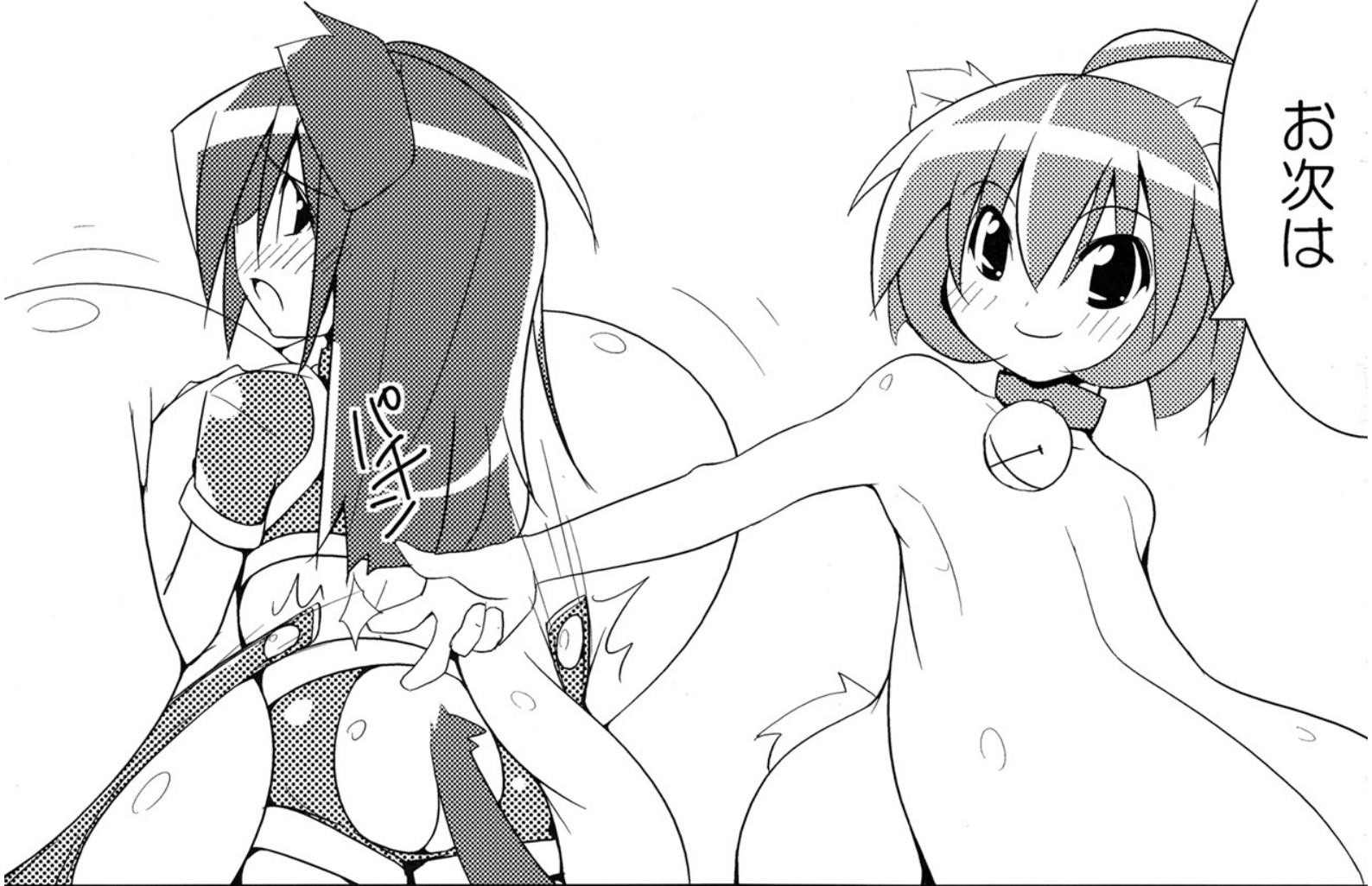
さあ
脱いで
脱いで

おさし
!!!

あ
あ
あ



お次は





鳥がない

あとで
オシオキだ

やっぱり母乳は
ルーニーが

おるん

イチバン
だなー



h 1 ?

自分の味は
どうなのよー

あっ

やめれー

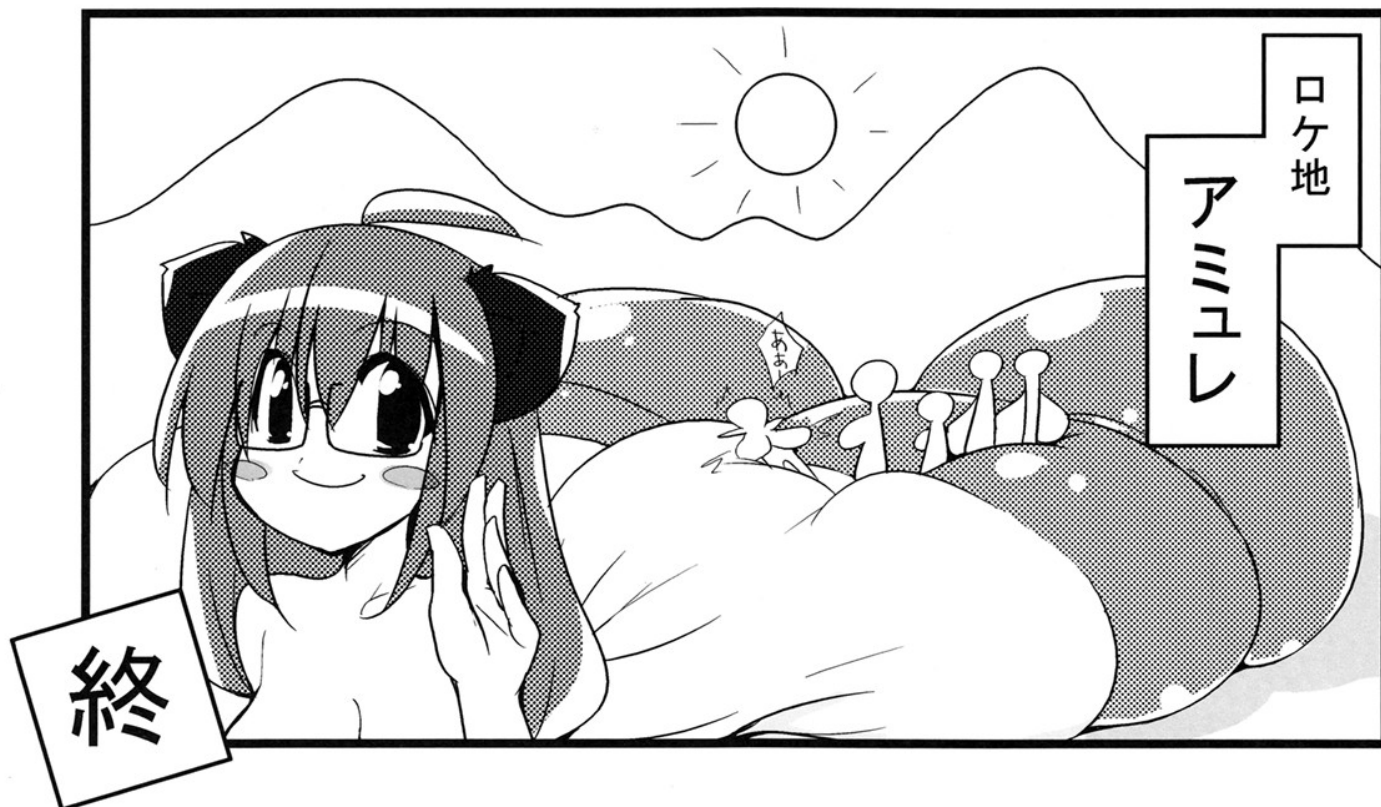
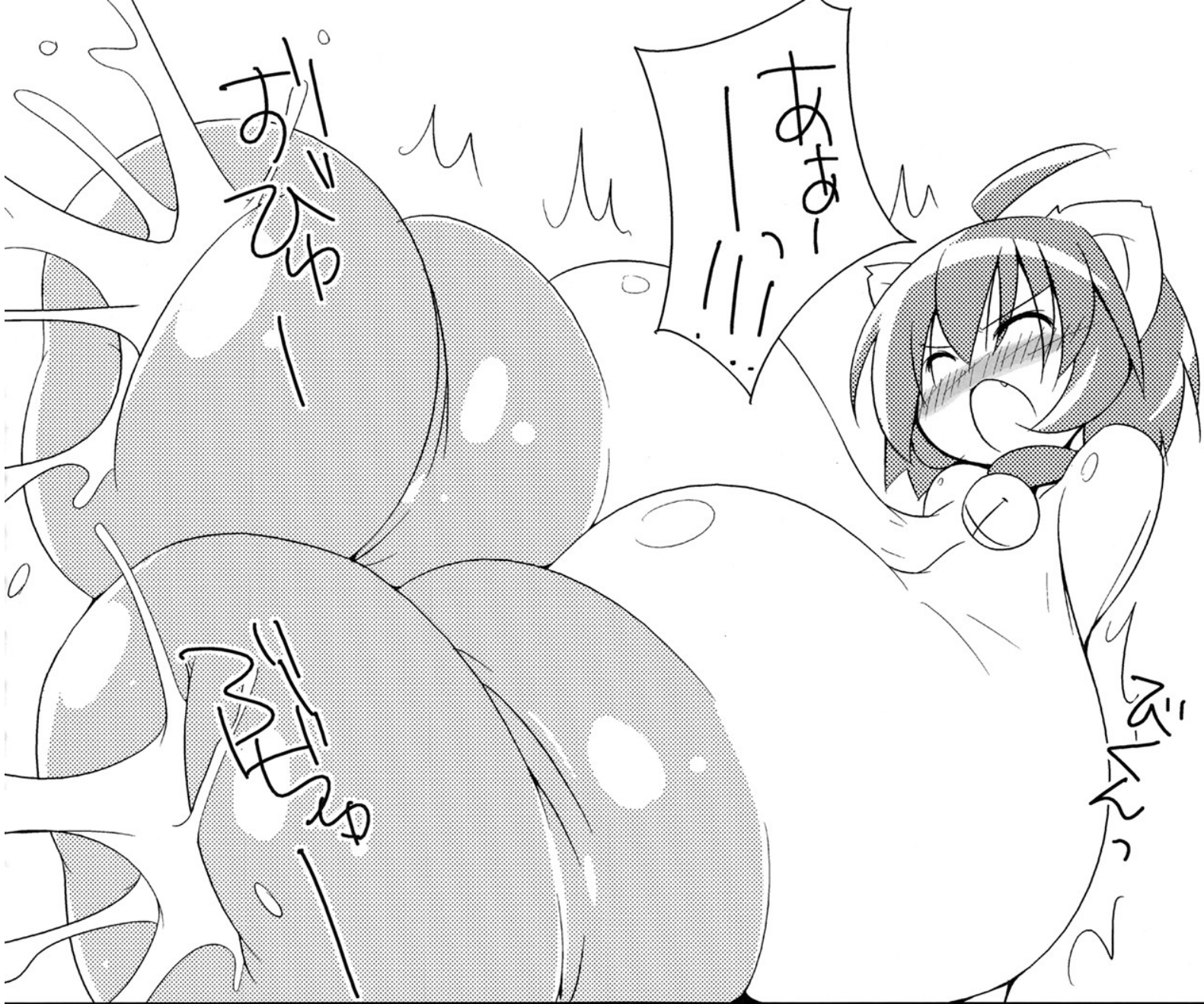
に ひゅ

25
Kahlua Milk

あつ

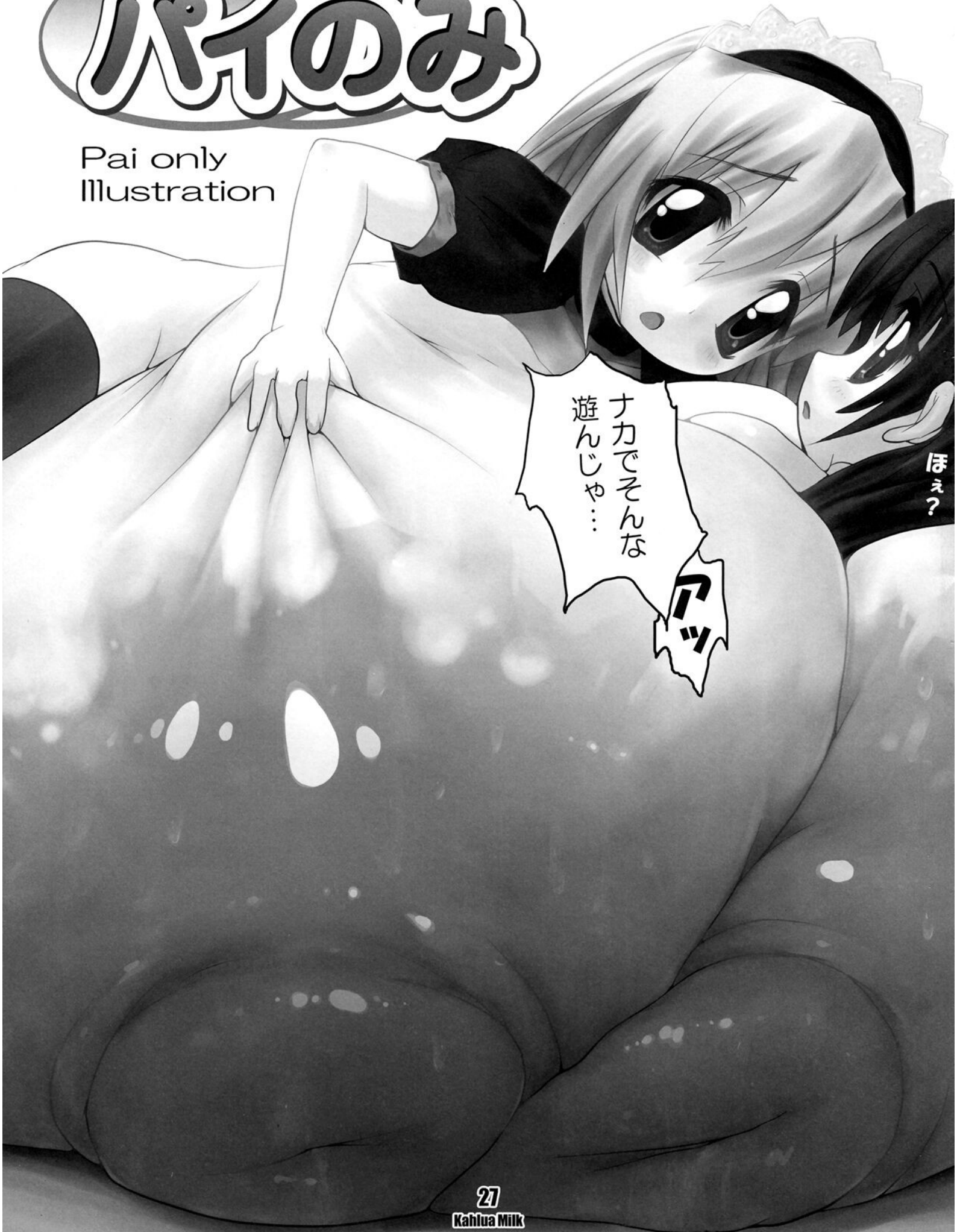
やめれー

25



パイのみ

Pai only
Illustration



いいよ…入れても



いい湯だな
うん
うん

いい湯だな
うん
うん

－ 眠りの時には誰かの腕で －

今日も僕はまた彼女の家に来てしまった。
いつものようにソレを愉しむために・・・。



「今日もまたアソビに来てくれてありがとう・・・。

うれしいなあ、ここのところお出かけするにもかなり億劫でできないから・・・。」

にっこり顔で来訪した僕を迎えてくれる一人の女性。

僕より幾分小柄な体にサラサラとしたやわらかいセミロングの髪の毛。

くりくりとした釣り目気味の青い大きな瞳、

そして僕達とは明らかに異なった形状のとがった耳。

可憐な外見が示すように彼女はエルフの女の子。

自分よりも幾分幼く見えるけれど実際には相当年上のおねーさん（らしい）。

ついでに言えば・・・エッチ好きでもある。

でも一番に目を引くのは種族の特徴であるとがった耳よりもその巨大すぎるバストだった。

自分の体を覆い隠し、太もの高さまで垂れ下がるほど。

片方だけでもエクササイズボール並の大きさなのだ。

つい、この間に聞いた限りでは自分の身長を軽く上回るサイズらしい。

2メートルは優にある。

当然、そのおっぱいの重さもかなりのもので、動き回るのに大きな制限を加えている。

自分の体重の半分以上が胸の重さなのだ。

あまり家から出たくないらしく、僕が彼女の家呼び出されるのは頻繁な事柄だった。

美人、というよりまだかわいさの残る顔に微笑みを浮かべて

「ねえ・・・早速だけど・・・しよっか？」

彼女の部屋に誘われてまだ間もないというのに、

そう言って上着のチャックを開かずに服を上にはずらす。

服が相当苦しそうになるほどに詰め込まれた巨大なおっぱいの一部が
でろんと飛び出してくる。

サイズが合うブラなんてこの世にあるわけもなく、服の下はノーブラで
すでに硬く隆起している乳首で服がつっかえている形だ。

あまりにも魅力的な誘いにこちらもそんな欲求を拒む事をしないのだけれども。



「どう？すごいでしょ？私のおっぱい・・・。

また大きくなっちゃって・・・どんどんいやらしい大きさにっていく気がするの・・・」

服が支えきることが出来なくなりこぼれ出たソレはこれほどの大きさだというのに

形状はきれいに、ツンと乳首が上を向いた釣り鐘型。

壊れそうな華奢な体に不釣り合いなサイズで

しっとりとした肌の質感、重量感を湛えつつもその形状を維持していた。

球の中心よりやや上の位置に自分の顔ほどもある淡いピンク色の乳輪。

さらにその中心をゴルフボールよりも大きめな乳首が飾っている。

「昨日サイズを測ってからすでにこのおっぱい、5センチは大きくなっているのよ？

体重も当然増えたんだけど・・・あー・・・こっちは当然だけど秘密ね。」

服を脱ぎつつ、クスッと苦笑いをしながらそんな事を僕に教えてくれる。

重さは教えてもらえなかったけれど大体は分かる。

なにせその肉の袋ともいえる白い脂肪の塊は二つ合わせれば僕よりも確実に重いのだ。

100キロ近くだろう。

「それじゃ・・・楽しみましょっか。」

すべてを剥ぎ取って全裸となった彼女は相変わらず迫力のある肢体。

正面から見つめると胸から細い足が生えているようにも見える。

胸以外はほっそりしているので胸とのギャップにインパクトのある身体として映るのだ。

「フフッ・・・貴方も楽しんでね・・・？」

愉悦に浸っている事が明らかなまでの笑みを浮かべて

四つんばいになって僕に迫ってくる。

半瞬遅れるようにおっぱいもつられてベッドの上を引きずるようにズズッと迫ってくる。

彼女の腕はあまりにも柔らかな自らの胸にすでに深く埋もれている。

すぐに目の前は彼女自慢の白い柔らかな肉塊で一杯になる。

それはすでに彼女の精神の高揚を示すようにほんのりとした桜色になりつつあった。



「・・・こんなに大きい貴方のモノでも私の胸ならば全部中に収まっちゃうのね・・・。」

まるで自分の身体のもつ魅力に酔っているかのような言葉。

実際、僕はその巨大な柔肉に振り回されるだけの人形のような存在だった。

彼女は雪のように白い球体を身体ごとを僕にすり寄せていた。

僕のモノは成人男性の平均を明らかに上回っているほどに巨大なモノのはずなのに、それを難なくスッポリと収めきってしまう彼女のバスト。

ムニュムニュとした暖かい感覚は僕のモノだけを包むには余りにも大きすぎ、身体にまでその脂肪の圧力が感じられる。

「フッフ、顔に似合わず、下のコレは凶暴なはずなのに・・・なぜか可愛く思えちゃう・・・。

私の胸が大きすぎて感覚がおかしくなっているのかなぁ・・・？

お姉さんに任せて、君にはとりあえず一回果ててもらいましょ。」

見た目は年下な彼女がお姉さんぶって僕を誘導するのは微笑ましく楽しい。

彼女は自分の胸の一部を使って僕のモノを弄び始めた。

余りにも大きすぎるおっぱいだから、胸肉を全てを使うと埋もれて隠れてしまうのだ。

小さな舌で這いずり回し、丁寧に・・・でも焦らす様に、亀頭を舐めあげてくる同時に自分の胸を鷺掴みにしてその形を大きく歪めながらモノに擦り付けてくる。

先ほどから彼女の乳首からはミルクが止め処もなく垂れ流されており、

すでに1リットルはミルクを吐き出しているだろうか・・・？

色々な汁にまみれた彼女の胸で僕のモノは滑らかにしごかれる。

きめ細かいマシュマロのような肌に、柔らかく包み込むムニュツとした感触・・・。

とろみのある黄色味を帯びたミルク。

彼女の乳房が生み出す谷間に文字通りどこまでも埋もれていく僕の身体とモノ。

余りの快感にたまらず僕はあっけなく根負けした。

白く濁った欲望を彼女の顔面にありったけ吐き出した・・・。

彼女の顔が白で埋め尽くされる程に・・・。



「あれからもね・・・胸の成長が止まらないの・・・。

まるでおっぱいが私の本体みたい・・・。」

夢を見ているような蕩ける声。

彼女は苦笑とともとれる微笑みと一緒に僕を迎え入れてくれる。

ただ、昨日と明らかに違うのは、玄関に彼女が迎えに来てくれなかった事だろう。

昨日に続き彼女の部屋訪れた僕の視界を埋め尽くすのは・・・白い肌の色だけだった。

彼女のおっぱいは自分の乳房の重みで動くどころか

まともに立つ事が出来ない程、大きくなっていた。

10メートルを軽く超える大きさになっていてその上に座るようにして彼女はいた。

重さは車数台分に匹敵するに違いない。

「まだまだ大きくなってるの・・・。

一体いつまで大きくなるのか・・・私自身不安で一杯・・・。

でもね・・・その反面でこのままもっと大きくなってほしいって言う気持ちもあるのよ。

気持ちいいの。このおっぱいに触れているととても気持ちよくて・・・心が安らぐのよ・・・。

あなたの自慢のモノどころか身体を丸々、このおっぱいなら埋め尽くせるわよ？」

誘うように笑みを浮かべて僕の下半身を眺める彼女。

「また、私のおっぱいをいじってくれる・・・？」

片方の乳房よりも、小さな身体の貴方で私を満足させられるかしら？」

期待感だけで彼女の胸の内側にミルクが作られているのだろう。

その肉塊に耳を当てるとトクントクンという音が聞こえてくる。

子供と言われそうだが、その暖かく柔らかいまろみ・・・これほどまでに安らげるものはない。

ふと、気がつくと僕の足元の床はすでに白い液体で浸っていた。

さながら床下浸水のようなまでに・・・。

「さあ、またイイコトしましょ。」

了



時間を重ねるにつれて、おっぱいがパンパンになるほど張りを増しているのが肌越しに伝わってくる。

ただでさえ大きなおっぱいの中で母乳が作られてさらに張りを増していく。

あわせて乳首も硬く、まるで勃起のように一回り大きくなっている。

おっぱいの重みも増していて乳房の揺れに彼女の身体が振り回されている。

「んはあ・・・き・・・気持ちいいよおつつ・・・！」

おっぱいに隠れて見えはしないが、彼女は僕の巨大なモノを飲み込んでいるのだ。

上下のピストンの動きに1テンポ遅れて揺れ動くおっぱい。その快感を身体全体で表す。

火照って汗っばい全身、荒い吐息、甘ったるい匂いを辺りに撒き散らすミルク・・・。

だが、最たる表現はやはり彼女の乳房が行っている・・・。

口に咥え込むには少々きついほどの大きさの乳首からは夥しい量のミルクを噴出させる。

「んはあ・・・どくどく出てくるっ・・・ミルクが・・・あ・・・

止まらないっ・・・っ・・・！」

たふたふとおっぱいが揺れ、それにあわせるようにミルクが至る所に振りまかれる。

部屋の壁面中に白い水玉が飾られる、辺り一面をミルクまみれにする。

射乳は留まる事なく続き、彼女のミルクは胸の曲面を伝い流れ、腹部を、足元を、そしてベッドまで白く染みていく。

そして絶頂へと導かれる・・・。

「あつ…あつつ…ああつ！ああつ！！あああああ！！！！」

事が終わり、怠惰にベッドに横たわる彼女と僕。

彼女の乳を眺めると、少しずつ今でも膨らんでいるのがわかる。

少しずつ・・・少しずつ・・・だけれども目に見える程度に膨らんでいる。

隣に寝ている僕に迫りくるようにズズッと広がっていく・・・。

翌日・・・僕の家には彼女からという連絡がやってきた。

「お願い・・・ハアハア・・・来てほしいの・・・あ・・・あ・・・」

息苦しそうに彼女の吐息が電話越しに聞こえていた・・・。

彼女の家に行かない訳には行かなかった。

NO NO だーめ

アンです。

巨乳っ娘も **6 回目** と、回数を重ねてきましたが

ソレにあわせて Cowbell でもまあイロイロと

描きつらねて参りましたが今回のテーマは

「原点回帰」。

しかし、5月のイベントということで

忙しい3～4月に締め切りが来ることをすっかり

忘れて しまっていて **ジャンプ大ピンチ**。

毎度ながら無事本が出せることを祈りながら、

後書きを書いていたります！！！！

<http://milkwhite.sakura.ne.jp/>

巨乳娘6終わったらちゃんと更新しよう・・・



△締め切り間際の心境

※原作はみたことありません



ここまで
逃げてくれば

大丈夫
ですよー!!!

漠然と、鳥はミミズもしくはドドメを食ってる印象。ココロンが実際虫を食っているわけではないと思いたい。でも食うんだろうなあ佃煮。
出演キャラの詳細は、<http://www.ichigigo.sakura.ne.jp/~seigi/semahiro/baguchaka.htm>にてご覧ください。
さて、今回の話は8ページ程度を想定して考えたのですが、いざ描いてみたら16ページになりました。理由は乳がでかいから！

せまひろ

ゲストのカスタソです。はじめましてかな **コンニチハ**。
こんな **超乳**ばかりの本に描けて、**嬉し楽しかった**です。
描いたやつは **4ページ**なんですね。 **話もない**わけなのですが、
これが **ボクのやりたいこと**なのでわかってあげてくださいまし。
要は **画面いっぱい**の **乳し肉**が **汗**で
ビッショリ、ぐっしょりがいいんですねえ～。うまりてええ

仕事で疲れた体には 超乳布団でお休みよ 朝には晴れて天国さ
<http://kasutaso.sakura.ne.jp/>

一段落して落ち着く暇も無く、次は夏コミ原稿作業に
突入でございます・・・(==
次回は個人参加でCG集でも一、とおもっちゃいます。
ヨロシクデス～。

アガタ





KAHLUA MILK

奥付

サークル：COWBELL

(アン セまひろ 県晶)

ゲスト：カスターノさま

発行日：07年5月13日初版

18歳未満の方の購読、及び
無断の複製・転載・転売を
禁じます。



BUSTY
COMBELL
バス停